

令和7年度 全国学力・学習状況調査 調査の結果と分析について

実施日：令和7年4月17日（木） 八尾市教育委員会

1. 令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要について

（1）調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査の対象

小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6年生
中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第9年生

（3）調査の内容

●教科に関する調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6年生：国語・算数・理科
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第9年生：国語・数学・理科

●質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査。

●学校にする調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。

（4）調査結果の取り扱いに関する配慮事項

- 本調査の目的及び調査結果が、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにすること。

2. 八尾市の調査結果について

（1）調査を行った学校数と児童生徒数

- 市立小学校27校,義務教育学校前期課程,第6学年（国語2,008名 算数2,011名 理科2,013名）
- 市立中学校14校,義務教育学校後期課程,第3学年,第9学年（国語1,819名 数学1,824名 理科1,842名）

（2）児童生徒への個人調査結果票の返却日

返却基準日 令和7年9月1日（月）～令和7年9月8日（月）

（3）学力に関する調査結果について

＜小学校、義務教育学校前期課程の平均正答数と正答率比較 公立小学校集計値＞

	平均正答数			平均正答率（％）			対全国比	
	八尾市	大阪府	全国	八尾市	大阪府	全国	R 7	R 6
国語	8.8/14	9.2/14	9.4/14	63	65	66.8	0.94	0.95
算数	8.7/16	9.2/16	9.3/16	55	58	58	0.95	0.96
理科	8.8/17	9.3/17	9.7/17	51	55	57.1	0.89	

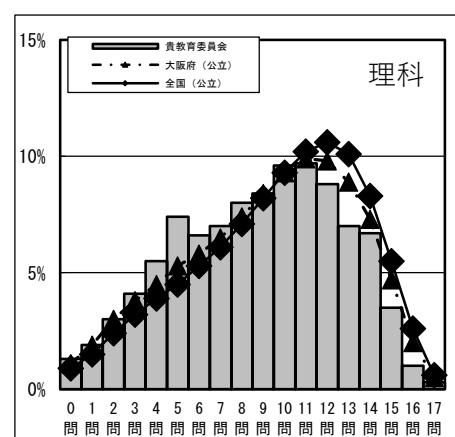
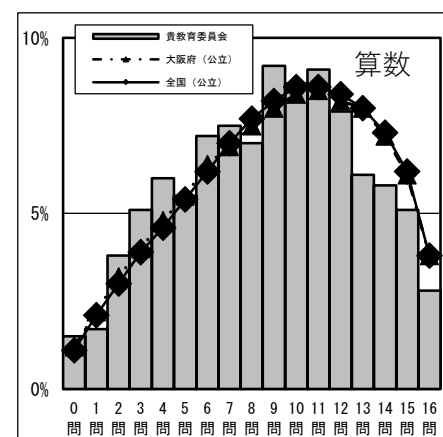
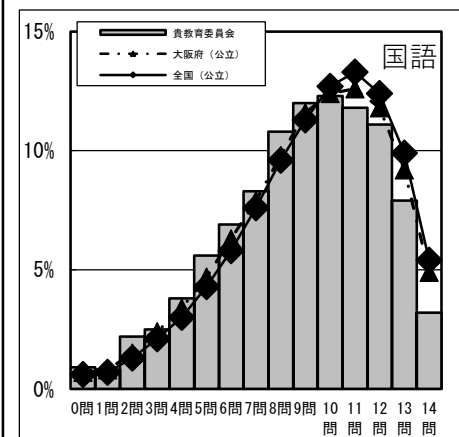
＜中学校、義務教育学校後期課程の平均正答数と正答率比較 公立中学校集計値＞

	平均正答数			平均正答率（％）※理科のみIRTスコア			対全国比	
	八尾市	大阪府	全国	八尾市	大阪府	全国	R 7	R 6
国語	7.2/14	7.3/14	7.6/14	52	52	54.3	0.96	0.98
数学	6.7/15	7.0/15	7.2/15	45	47	48.3	0.93	0.97
理科	2.6/6	2.7/6	2.7/6	475	487	503	0.94	—

IRT（Item Response Theory:項目反応理論）とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。IRTスコア500を基準とし、IRTバンドは3を基準とする。

3. 結果分析について（正答数分布グラフ 横軸：正答数 縦軸：割合）

■小学校及び義務教育学校前期課程

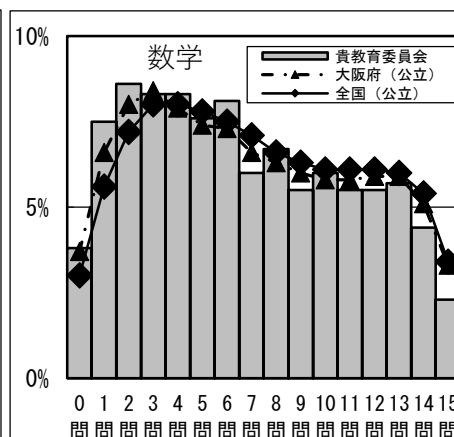
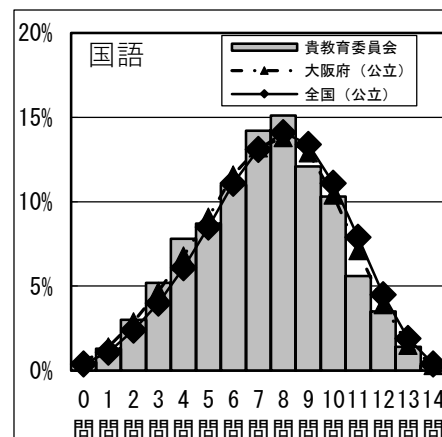


○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。
○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
◆目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

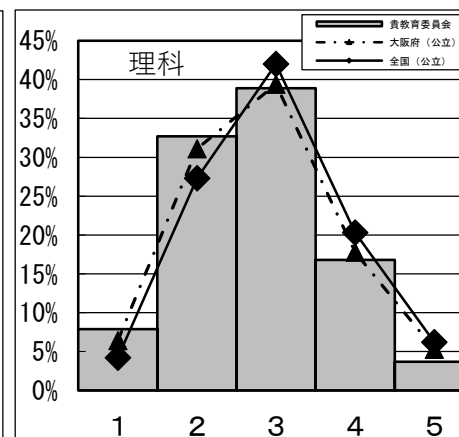
○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。
○異分母の分数の加法の計算をすることができる。
◆目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
◆分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。

○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる。
○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。
◆赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することに課題がある。
◆乾電池のつなぎ方に関する知識に課題がある。

■中学校及び義務教育学校後期課程



IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）
3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドになる



○「読むこと」で、物語における表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。
◆事象や行為を表す語彙についての理解や文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

○必ず起こる事柄の確率について理解できている。
○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる。
◆「データの活用」の領域で、相対度数など、用語やその求め方の理解に課題がある。
◆じゃんけんのような不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○気体の性質に関する知識や実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。
○友だちの発表を聞いて、自分の考えの変容や新たな疑問、身近な生活との関連などについて、振り返りを記述することができる。
◆資料に書かれた粒の大きさとしみ込みの大きさに着目しつつ、地層の特徴から水のしみ出し方を予想することに課題がある。
◆【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述することに課題がある。